



Montblanc de la Culture Arts Patronage Award 2018

【第27回モンブラン国際文化賞授賞式】

ラグジュアリーブランド「モンブラン」が
世界17カ国で開催するアート界随一の権威を誇る国際的文化賞に

日本の法人格としては初の「寺田倉庫」が受賞！

副賞として、特別限定品“パトロンシリーズ”の万年筆も授与

2020年に向けて新国立競技場の設計を手掛ける、
世界的建築家の隈研吾氏が中野善壽氏の受賞を祝して登壇！

この度、モンブラン文化財団は、文化芸術分野において若い才能の育成などに尽力する“アートパトロン”として貢献されている方を称える「モンブラン国際文化賞」の日本における2018年度の授賞式を、8月8日(水)寺田倉庫 B&C HALLにて開催致しました。

今年度の受賞者は、2020年を見据え天王洲エリアリバイバルや日本におけるモダンアートシーンの分野でのダイナミックな活動など、未来の新しい形のアートパトロンとして活躍されてきた寺田倉庫(代表取締役 中野善壽氏)が日本の法人格として初めて受賞致しました。寺田倉庫は、若手アーティストを支援することを目的としたアートアワードの開催、希少価値の高い画材を集めた画材ラボ、レンタルアトリエ、アート作品の運送・展示・保管・修復をワンストップサービスで提供するなど、中野氏のリーダーシップのもと、天王洲エリアはアートの聖地として生まれ変わりました。このような新たなタイプのアートパトロンとしての功績が、今回の受賞に繋がりました。

代表取締役 中野善壽氏は、今回の受賞を受け「私のもとで9年間あらゆる事にチャレンジしてくれた仲間達と共に、この栄えある素晴らしい賞を頂けず事にとっても感激しています。同時に大変誇りに思います。この誇りを糧に次のステップに向けて、さらなる挑戦に繋げてまいります」と喜びのコメントをしています。

当日は、世界の歴史に名を残すアートパトロンに捧げて発表されるモンブラン特別限定品「パトロンシリーズ」が贈呈されました。また、中野氏と縁の深い隈研吾氏にゲストオブオーナーとしてご登場頂き、寺田倉庫への受賞お祝いコメントとして「中野さんとは、仕事をしているだけでなく遊びを沢山させていただいて、世界の様々な所を旅行しました。美味しいものを食べて、飲んで。そういう事を通じて、文化の創造に繋がっていく、そのような楽しさの中から文化が生まれる。そのリアルなプロセスを中野さん、寺田倉庫さんに見せて頂きました。受賞を機に、新たなパートナーシップが生まれ、そのコミュニティが天王洲から広がると思うと、すごく胸がワクワクしております。」とお話されました。

また特別ゲストとして、アーティストのサラ・オレイン氏が登場し、歌声を披露。会場中を透き通るような美声で包みこみ、素晴らしい演奏とともに授賞式に華を添えて頂きました。



(左)隈研吾氏(右)中野善壽氏



中野善壽氏



(左)モンブラン ジャパン CEO シャルル・ラングロワ、
モンブラン文化財団チェアマン ティル・ファルラス
(中央)中野善壽氏、チェアマン サム・バルダウル
(右)サラ・オレイン氏、隈研吾氏

■当日参加いただいたゲストの方々



コシノジュンコ氏



(左)CEO(右)武田双雲氏



高橋裕士氏

■寺田倉庫(代表取締役中野 善壽氏)が受賞 世界の「アートパトロン」を讃える伝統のAward

アーティストや演奏家の功績・業績を称える国際的な賞は少なくありませんが、「モンブラン国際文化賞」は、彼らへの揺ぎない支援を通じて芸術の発展に寄与している個人や団体の活動を称える世界でもユニークな賞です。1992年にモンブラン文化財団によって創設された同賞は、毎年、芸術および文化の発展・繁栄のために無私無欲で惜しみない支援活動をしている現代のアートパトロンへ、その傑出した功績を称える証として授与されます。27回目を迎える2018年のモンブラン国際文化賞は、17の国と地域で17名の現代のアートパトロンへ授与されます。同賞は、創設以来これまでに、英国皇太子殿下、英国出身の指揮者であるサー・サイモン・ラトル氏、フランスのファッションデザイナーであるアニエスベー氏、イタリアを代表する建築家レンゾ・ピアノ氏、そして日本では、ファッションデザイナーのコシノジュンコ氏、アーティストのオノ・ヨーコ氏、歌舞伎俳優の市川猿翁氏、指揮者の小澤征爾氏、音楽家の坂本龍一氏をはじめとする高名な方々に贈られてきました。日本では1994年から欠かさず実施されており、わが国における「アートパトロンイズ」に対する啓蒙に努めてきました。この活動は、筆記文化の牽引役を自負し、様々な形で文化芸術支援を行っているモンブランにとって、最も重要な活動のひとつとなっています。今年度の受賞者は、2020年を見据え天王洲エリアリバイバルや日本におけるモダンアートシーンの分野でのダイナミックな活動など、未来の新しい形のアートパトロンとして活躍されてきた寺田倉庫(代表取締役 中野 善壽氏)に決定致しました。なお、日本における同賞の受賞者としては初の法人格となります。

■指折りのクリエイターたちが推薦

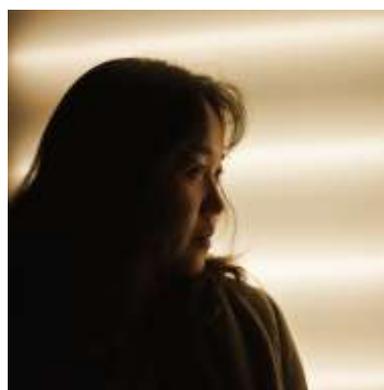
受賞者は、モンブラン文化財団が各国から選び抜いたノミネーター(推薦人)とモンブラン文化財団の選考によって選出されます。各国を代表するアーティストで編成されるノミネーターも、受賞者の豪華な布陣とともに、芸術への影響力が大きい世界で指折りのクリエイティブな方たちです。2018年の日本におけるノミネーターに選出された方は、ビジュアルデザインスタジオ「w0w」代表の高橋裕士氏、ギャラリストの小山登美夫氏、ドイツ在住アーティストの塩田千春氏の御三方です。



高橋 裕士氏



小山 登美夫氏



塩田 千春氏

■今を生きるパトロンと歴史上の偉大なパトロンとの出会い。 モンブラン 特別限定品万年筆「パトロン シリーズ 2018 ルートヴィヒ II」



各国から選ばれたモンブラン国際文化賞の受賞者には、主賞として、モンブラン文化財団より 15,000 ユーロの小切手が授与されます。小切手のあて先は受賞者が指定し、受賞者が支援する団体への寄付となります。さらに、副賞として、モンブラン特別限定品万年筆「パトロンシリーズ」より、受賞者のためだけに製作されるスペシャルバージョンが授与されます。この「パトロンシリーズ」は 1992 年の同賞の発足より毎年発表されるコレクションで、歴史上の偉大なアートパトロンをテーマに製作されます。2018 年は、ワーグナーの庇護者として知られるバイエルン王「ルートヴィヒ II」に想を得た万年筆です。スペシャルバージョンは、毎年の受賞者の数とモンブラン博物館に収蔵されるものだけしか生産されない希少な作品です。

■日本における受賞 寺田倉庫（代表取締役 中野善壽氏）

受賞理由；

天王洲エリアリバイバルなど

新たなタイプのアートパトロンとしてのダイナミズムに対して

日本におけるモダンアートシーンの分野で寺田倉庫のダイナミックな活動の数々は、未来の新しい形のアートパトロンの役割を示唆しています。代表取締役の中野 善壽氏は、自らがアートコレクターであるばかりでなく、アーティストやアートパロンたちの救世主でもあります。まず、その自社のアートスペースは美術展を開催する最もホットなスポットのひとつであり、2017 年の「DAVID BOWIE is」も開催されています。中野氏のリーダーシップの下、東京オリンピック開催の 2020 年までには、天王洲エリアはモダンアートの聖地として生まれ変わります。スタインウェイ・ジャパンなどの文化芸術に関係の深い企業も、誘致に応じてこの地にオフィスを開き、カフェやギャラリーも続々と軒を連ねています。さらに、寺田倉庫は、長きに渡り、アーティストのみならず、アートパロンにも、彼らのコレクションを披露する場を提供し続けているという事実も特筆すべきことです。日本における同賞の受賞者としては初の法人格となりますが、個人の情熱や審美眼ならびに先見の明が、企業活動を通して増幅され、大きな結実と効果を実現しているこのケースは、今こそ讃えられるべきものです。

■寺田倉庫について

1950 年東京・天王洲の地に創業した寺田倉庫は、スペースを活用するノウハウを駆使した保存・保管の技術向上を追求しており、美術品、ワイン、メディアといった専門的な商品の保存・保管技術においては業界内で高い評価を得ております。近年では、アートの発信地・集積地としての天王洲をコンセプトに、アート関連事業に注力。その領域は美術品修復施設や画材ラボ、ギャラリー、ミュージアム等の施設運営、また後世に継承されるべき伝統芸能のサポート等芸術文化活動への積極的な支援など多岐にわたります。

■代表取締役・中野 善壽(なかの よしひさ)氏について

1944 年生まれ。伊勢丹を経て、鈴屋にて海外事業や商品開発担当、代表取締役専務など歴任。パリ、ニューヨークに駐在し海外出店を推進。その後台湾に渡り、中国力霸集団百貨店部門代表、遠東集团董事长特別顧問及び亜東百貨 COO を経験。2011 年寺田倉庫入社、2012 年より代表取締役を務める。同社では大規模な組織再編や、事業構造の改革を行い、Web サービス構築の推進や、スペースを活かしたアートコンテンツ事業の展開など、従来の倉庫業の領域を超える事業の指揮を執る。また、個人で台湾に会社を設立し、アジア各国の商業施設開発コーディネーター&アドバイザー業務を受託、現在に至る。2015 年中華民国政府文化部名誉顧問就任。27 年に渡り台湾に在住、現在に至る。

■主賞 15,000 ユーロの寄付先について

モンブラン文化財団より受賞者に贈られる主賞は、新たな一般社団法人の設立の立ち上げ資金の一部として寄付されることとなりました。以下の通り、代表取締役 中野善壽氏よりコメントをお寄せ頂きました。

MONTBLANC & TERRADA FOUNDATION

一般財団法人 MONTBLANC -TERRADA 財団について

寺田倉庫は美術品保管を主軸に、美術品修復、輸配送、展示といった分野から、アート施設の運営、若手アーティストの支援など、アート・文化関連事業を広く発展させてまいりました。また近年は、拠点である東京・天王洲にミュージアム、画材ラボ、アート修復工房といった施設を誕生させ、文化的なイベントを積極的に誘致したことにより「アートの街 天王洲」としてエリアリバイバルを果たしました。

この度、栄えあるモンブラン国際文化賞を受賞するにあたり、当社はこの受賞を真摯に受け止め、またその榮譽を糧に引き続き精進していく所存です。賞金についても、芸術・文化を発信する立場にある企業であるからこそ、果たすべき役割を全うする使途を検討し、「一般財団法人 MONTBLANC -TERRADA 財団」を設立いたしました。今後は、財団を通じて難病と闘う子ども達を支援するアートプロジェクトへの取り組みをはじめ、遍く人々にアートを体験していただくことで、豊かな感性を育み、文化的な生活の向上の一助となるような機会を創出し続けてまいります。

■会場展示アーティスト



神馬啓佑 Keisuke Jinba

1985年愛知県生まれ。2011年 京都造形芸術大学大学院芸術研究科表現専攻修了。2018年「当然の結末#2(鑑賞と干渉、言語能力、円周軌道)」(ギャラリーparc 京都)、2016年「肉とヴェール 清田泰寛 神馬啓佑二人展」(京都芸術センター)、「VOCA 展 現代美術の展望—新しい平面の作家たち—」(上野の森美術館)といった展覧会を開催。「物質と記憶」をキーワードに所有物への愛着や個人的経験をモチーフにした平面作品を発表している



鈴木ヒラク Hiraku Suzuki

1978年生まれ。アーティスト。東京芸術大学大学院美術研究科修了後、シドニー、サンパウロ、ロンドン、ニューヨーク、ベルリンを拠点に滞在制作を行う。「描く」と「書く」の間を主題に、平面、インスタレーション、壁画、映像、パフォーマンス、彫刻、写真など多岐にわたる制作を展開し、国内外でドローイングの領域を拡張し続けている。音楽家や詩人とのセッションや、アニエス・ベーやコム・デ・ギャルソンとのコラボレーションも手掛ける。著書に「GENGA」(河出書房新社)など



中島崇 Takashi Nakajima

1972年生まれ。1994年 桑沢デザイン研究所 写真研究科卒業。現代美術作家。「私の芸術表現とは、個人と公共が交わる場所をつくることです。つまり、個人的思考を公共に向けて提案する行為だと思っています。セッティングされた空間の中で人と人が出会い、語らい、新たな思考を発見し、鑑賞者も作品の一部となり、作品もまた鑑賞者の一部となる。そんなインスタレーション作品の発表を続けています」



藤元明 Akira Fujimoto

1975 年東京生まれ。東京藝術大学デザイン科卒業。FABRICA(イタリア)に在籍後、東京藝術大学先端芸術表現科非常勤助手を経て現在アーティストとして国内外で活動。東京藝樹大学非常勤講師。人間では制御出来ない社会現象をモチーフとして、様々な表現手法で作品展示やプロジェクトを展開。主なプロジェクトに「NEW RECYCLE®」「ARITA Aura」「2021」「Fountain」「ソアイダ」など



水川千春 Chiharu Mizukawa

1981 年大阪生まれ。2004 年同志社女子大学卒業。2006 年彩都 IMI 大学院スクール修了。美術作家。2006 年から2014 年まで移動生活をしながら多数の滞在レジデンスに参加し、国内外で多数の展示を行う。代表作として、残り湯、温泉、雨、川、海などの水をつかったあぶりだし絵の作品。ライブで炙り出すパフォーマンスや、音楽や舞台とのコラボも行う



山本努 Tsutomu Yamamoto

1980 年岡山生まれ。2009 年東京芸術大学大学院先端芸術表現科修了。一年を通じ、時間を見つけて、釣りのために湖に浮く中から視覚化される、または振動などの不可視の事柄を現象として捉えカタチにする活動を続けている。近年では風の流れを形態化したレリーフなどを制作している

■モンブランについて

モンブランは 1906 年以来の先駆的な精神に則って、画期的な技術革新で筆記文化に革命をもたらすタンク式の万年筆を世に送り出しました。現在、モンブランは、頂点を極めた筆記具はもちろん、時計、レザーアイテム、アクセサリ、香水、アイウェア等の分野にその領域を開拓し、精緻なクラフツマンシップを進化させ続けています。おのこの分野において、伝統に磨かれた新しい機能性と画期的なデザインを提供するため、最高の職人技を捜し求めた結果、筆記具はドイツのハンブルク、時計はスイスのジュラ地方のル・ロックルとヴィルレ、レザーアイテムはイタリアのフィレンツェに自社工房を設立しています。生涯の伴侶として相応しいパフォーマンス、新鮮さ、品質、スタイルを約束するのは、アイコニックなモンブランのブランドロゴマークです。最近ではデジタルツールの開発にも積極的に取り組んでおり、その革新的な精神は変わらずに今もなお息づいています。人類文明を構成する基本的な要素のひとつである筆記文化に深く根付いた伝統を有するモンブランは、創業以来芸術・文化活動を支援し続けています。そうした活動の中でも、四半世紀を超える歴史を持つ「モンブラン国際文化賞」は、アーティストではなく、アーティストを影で支える人々の活動を称えるユニークなアワードとして独自の存在感を確立しています